

板橋区ユニバーサルデザイン推進計画 2035(素案)に対する パブリックコメントの実施結果について

1 募集期間

令和7年 11 月 10 日(月)から 12 月1日(月)まで【22日間】

2 周知方法

- ・広報いたばし(11 月8日号)
- ・区公式ホームページ
- ・障がい政策課、区政資料室及び各区立図書館における閲覧
- ・「パブリックコメント等区民参加情報配信制度」登録者への情報配信 ほか

3 件数

14 件・5人(団体1、個人4)

4 意見の概要と区の考え方

No.	項目	意見の概要	区の考え方
1	全体	「板橋区ユニバーサルデザインガイドライン」と「実施計画事業実績」に関して、ホームページを閲覧した。大変細かく策定されているが、使いこなせているのだろうかという疑問に思う。	「板橋区ユニバーサルデザインガイドライン」については、社会の声やさまざまな声を反映し定期的に見直し・更新するとともに、さらなる活用に向けて庁内外への普及に努めてまいります。
2	全体	「板橋区ユニバーサルデザイン推進計画 2025 実施計画重点事業実績一覧」では、全てが「達成」とされている。区民に役立っている事業も多くあったのかもしれないが、本当に有意義で目標とする成果を得られ、全て達成したと評価できるのか。これから「推進計画 2035」を策定するにあたり、前述の件を踏まえ、事業計画内容を深くとらえて推進していただきたい。	「推進計画 2035」については成果指標を設け、数値による客観的かつ定数的な評価で成果をわかりやすく提示いたします。また、計画事業の意義への理解を深めたいうで取り組めるよう努めてまいります。
3	指針1— (1)学び	パンフレット「まちのなかで気づくかな？」について、子どもたちにとってもわかりやすく、役立っていると思う。障がい当事者が困難な状況に出会った時、SOS の声を出しやすい社会環境を創り上げることが必要だと思う。	困難にあったときに当事者が声をあげやすく、また周囲の人が手を差し伸べることは、非常に重要であると認識しています。「まちのなかで気づくかな？」を用いた普及啓発や福祉教育を通じて、だれもが地域の中で交流し支

			え合う「地域共生社会」をめざしてまいります。
4	指針1— (2)しくみ	事業「ユニバーサルデザインアドバイザーの活用による専門的支援の充実」についても、事業「ユニバーサルデザイン推進調整会議の運用と機能強化」と同様に、設計段階から障がい当事者の意見も取り入れていただきたい。	だれもが心地よく過ごせる空間づくりのため、当事者による点検のしくみをつくり、その意見を次の公共施設の設計にも取り入れるなど、整備水準の向上を図ってまいります。
5	指針2— (3)まち	新しく建設される商業施設や公共施設においては、寝たきりの人がオムツ交換できる介助ベッドのあるユニバーサルトイレの設置を、建物1つにつき1箇所でもいので設計していただきたい。	公共施設のバリアフリートイレ整備について、区の新設の公共施設では、原則ユニバーサルシートを設置する方針となっています。既存施設では、「公共施設トイレのバリアフリー化」事業の中で可能な限り対応してまいります。商業施設等の民間施設については、必要性や設置の際の留意事項等について啓発を行ってまいります。
6	指針2— (3)まち	車椅子の子どもと通学している。学校までの道のりが整備され綺麗になり嬉しく思っている。ただ、朝はスピードを上げた自転車が走っていることがあり危ないなと気になっている。また、小竹向原駅のエレベーターがもう少し広くなり早く動くとうありがたい。	駅エレベーターについては、車いす利用者など必要な人が利用できるよう、適切な利用を呼びかけるとともに、鉄道事業者に機会を捉えて要望を伝えてまいります。また、自転車についても、ルールを守った安全な走行ができるよう、努めてまいります。
7	指針2— (3)まち	駅から施設までの移動経路やバス・タクシーなども含めた一連の移動手段についての課題抽出や整備ができるとう思う。	移動環境のユニバーサルデザインの推進においては、多様な移動手段の乗り換え動線など、さまざまな課題を解決できるよう整備に努めてまいります。

8	指針2— (3)まち	電車とホームの段差や隙間についての対策なども入れていただきたい。	電車とホームの段差や隙間の解消は、車いす利用者やベビーカー利用者、ご高齢の方などの安全な乗降のために重要な課題であり、区としてもユニバーサルデザインの観点からその必要性を認識しています。 本計画では、「施策(3)―②移動環境のユニバーサルデザインの推進」の取組の一つとして、鉄道事業者など関係機関に対し、ホームと車両との段差や隙間の縮小を含めた環境整備を働きかけていくことを位置付けています。今後も、関係機関と連携しながら、より安全で円滑に利用できる移動環境の実現に取り組んでまいります。
9	指針2— (3)まち	高島平地域は高齢化が板橋区の2倍の45パーセント、外国人の方々も多く住んでいる。 高島平地域をユニバーサルデザインのモデル地域にすることはできないか。 UR高島平団地では、新たなモビリティの導入に向けた実証実験が実施され、参加者の評価は良かったと思う。 また、高島平地域のウェルフェア発展に向けて、さまざまな取り組みが行われており、ユニバーサルデザインとは知らずに参加している方々が私を含めて多くいる。 ぜひ、高島平からユニバーサルデザインを普及させていってほしい。	高島平のまちづくりについては、多世代の多様な人が安心して暮らし、みどり豊かな環境の中で交流できるまちをめざしており、ユニバーサルデザインのモデル地域にもなりえると認識しています。再整備によってしつらえが変わっていく中で、ユニバーサルデザインのまちづくりに努めてまいります。
10	指針2— (4)くらし	デジタル技術等利用の格差は、高齢者だけではなく、障がい者の中でもあると思う。 障がい者(肢体不自由・知的障がい)への利用可能な機種や入力装置の開発、日常生活用具・福祉用具としての認定など、幅広い対応が求められる。 AI等新技術が開発されていく現在、制	デジタル技術の格差については、障がい者スマホ教室等でその解消に努めております。また、日常生活用具・福祉用具の認定については、日常生活用具選定会議において検討しております。だれもがくらしやすいまちに向け、区公式ホームページの改善やDXの推進によって情報取得環境や申請しやすい環

		度変更など速やかに情報を知ることができ、申請しやすい環境づくりを行えるよう、区として態勢をとってほしい。	境の整備を推進してまいります。
11	指針2— (4)くらし	ユニバーサルデザインの視点に立った避難所整備や災害に関する情報発信等、全庁を通じた取組を推進することが必要とあるが、どんな事を想定していても、災害時等は想定外の事態が起こり得ると思う。災害時については、障がい者が非常に心配していることでもあるので、いざという時のために、この全庁を通じた取組の推進は、是非お願いしたい。	ご意見にあるとおり、想定外の事態は起こりえるものと認識しています。だれもが災害時・緊急時への備えを行えるよう、また避難所では安心して過ごせるよう、全庁を通じて取り組んでまいります。
12	コラム 「その声が、まちを変える—当事者のちから」	内容に共感する。ぜひ実際困ったことがある当事者の声を取り入れていただきたい。	多様な視点を取り入れた魅力あるまちづくりのため、当事者による点検など、声を取り入れるしくみづくりを推進してまいります。